



4月22日(金)

## 正しい着用で事故ゼロへ チャイルドシート着用促進街頭啓発活動

地域民のチャイルドシート着用率向上を図るため、ホック伯耆店前で4月22日(金)、黒坂警察署をはじめ関係機関が啓発活動を行いました。

啓発活動を行ったのは、黒坂警察署員、鳥取県交通安全協会の日野川地区協議員、伯耆町交通安全指導員など約20名です。参加者は店頭立ち、買い物客にチラシを手渡ししながら、チャイルドシートの着用や正しい使用を呼びかけました。

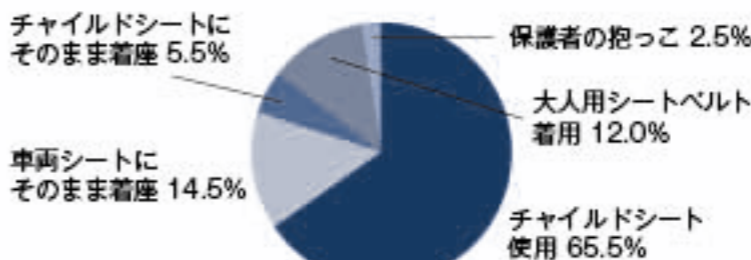
6歳未満の幼児は、チャイルドシートの使用が義務付けられています。警察庁と一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が平成27年5、6月に実施したチャイルドシート使用状況全国調査によると、鳥取県の使用率は65.5%で、全国平均62.7%を上回りました。

黒坂警察署・交通課の西川弘道課長は「鳥取県は、チャイルドシート着用率がワーストに挙げられたこともある。着用率を上げて、子どもの事故を一件でもなくしたい」と話しました。



▲ホック伯耆店前で正しい着用を呼びかけ

### 6歳未満のチャイルドシート乗車状況(平成27年調査)



▲鳥取県では、3割がチャイルドシート非着用(本文内同調査)

## 4月20日(金・祝) 祝 入館者数60万人突破 美術鑑賞入館者60万人達成セレモニー

**植** 田正治写真美術館で4月20日(金・祝)、入館者数が通算60万人突破したことを記念して、節目の来館者となった岡山市の岩本孝さん・佳子さんと、森安保町長らから記念品が贈られました。

節目の来館者となったのは、日帰り鳥取旅行に訪れたという岡山市の会社員・岩本孝さん(48)と佳子さん(50)夫婦。孝さんが2年前に仕事で当地を訪れた際、建物に興味を持ったことが来館のきっかけとなりました。佳子さんは「絵の美術館にはよく行くが、写真は初めてなので楽しみ。記念の日に来ることができてうれしい」と話しました。

記念セレモニーでは、森安町長から花束と図録が、植田正治写真美術館財団の植田亨理事からフォトスタンドが2人に贈られました。



▲記念品を手渡す森安町長(左から2番目)と植田亨氏(左)



▲作品鑑賞を楽しむ岩本さん夫婦

【植田正治写真美術館】  
境港市出身の写真家・植田正治氏の写真、約1万2千点を収蔵・展示する写真美術館。平成7年に開館し、

今年で21年目。本町の観光名所の一つとして、年間約2万人が来館。現在「終わりのなき挑戦―植田正治の1980年代―」を開催中。

4月26日(火)

## 世界へ発信 大山の物語 大山地蔵信仰・牛馬市「日本遺産」に認定



▲日本遺産認定をうけてかちどきをあげて喜ぶ関係者一同

**大** 山山麓の地藏信仰と大山牛馬市の「日本遺産」認定を記念して、大山町の大山寺山門前で4月26日(火)、祝賀式典が行われました。式典には、申請者の米子・大山・伯耆・江府の1市3町首長をはじめ、平井治郎県知事ら関係者が出席しました。

日本遺産は、文化財を通じて地域の歴史的魅力や特色を伝えるストーリー性を重視して、文化庁が認定します。認定を受けた日本遺産は、国内外へ広く情報発信され、現在増加している海外からの旅行者が、地方を周遊するきっかけになることが期待されています。今後、東京オリ

【ストーリー概要】  
平安時代末以降、大山寺に祀られる地藏菩薩の加護と延命をもたらす「利生水」を求めて、牛馬を運んだ人々が各地から参詣したことから、大山寺を中心に、水とつながりの深い独特の地藏信仰が誕生。鎌倉時代以降は、大山寺の庇護を受け、牛馬の交換や売買が盛んに行われるようになり、明治期には日本最大規模の牛馬市まで発展した。  
参詣者や牛馬の往来で賑わった大山道界隈は、石畳道や宿場の街並み、大山おこわ・大山そばなどの食文化、大山山中の水を汲み清める「もひとり神事」が今も残り、地藏信仰と牛馬市に裏打ちされた独自の文化が息づいている。

ピック開催の2020年までに100件程度が認定される見込みです。今回認定されたのは、米子、大山・伯耆・江府の1市3町で申請した「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」。県内では、三朝町の「投入堂」に続き、2件目の認定となりました。

## 4月30日(土) 日光に美味しい春が来た わらび採りと山菜料理を食べる会

**日** 光交流センター山隠れの里で4月30日(土)、わらび採り遠足と山菜料理を食べる会が開催され、町内外から20人が参加しました。当日は汗ばむほどの晴天で、参加者たちは家族や友人らと連れ立って、わらび採りをする大滝放牧場まで1.5キロ歩きました。放牧場には、木立の陰に長く太いわらびがたくさん生えていて、参加者たちは熱心に収穫しました。

その後、山隠れの里へ移動して、竹の器に盛り付けられたわらびの白和えやたららの芽の天ぷらなどの山菜料理を楽しみました。  
米子市から友人と参加した女性は、「昔はよく両親とわらび採りに行ったので、童心に返ったような気持ち。初めて参加したが懐かしかった」と話しました。



▲木陰には長く太いわらびがたくさん



▲昼食にはわらびの白和えやうど・たららの芽の天ぷらなどが並んだ